

3. 評価と価値区分

今回調査した底生動物について、価値区分のA、B、Cに関連するものはない。価値区分Dとして、水系の生態系の底部を支える底生動物の多様性保持のため、貧腐水性動物の供給源となる各支流の上流の山間部は保全すべき対象となる。特にこの20年余りの調査結果を踏まえると本流、猿田川及び石井川の上流域、宮川及び安ノ倉川上流部、名残川及び富地原川の上流域、朝町川の支流の藤倉川、綿打川、子下し川及び大穂川の上流部、山田川及び横山川の上流部、樽見川上流部が重要である（図9-4）。